



社会教育 アドバイザー通信



第8号

平成28年 2月23日

発行：秋田県教育委員会

編集：生涯学習センター

ふるさと秋田の元気を創る！

平成27年度

秋田県生涯学習・社会教育研究大会
(兼) 行動人交流集会

昨年12月11日(金)に「学びと行動が結び付いた「協働」の仕組みづくりを目指して」をサブテーマに、研究大会が行われました。パネルディスカッションでは、香川大学生涯学習教育研究センター長・教授の清國祐二先生がコーディネーターを務め、3人のパネラーから次のような活動が紹介されました。



◇東成瀬村社会教育委員・学校支援地域本部 コーディネーター 高橋かおる氏

- 登録ボランティアの活躍の場を学習・行事・環境整備の面からコーディネートしている。
- 学校の理解を得るために、図書ボランティアや読み聞かせをすることから始めた。今では、年中行事再現事業等に年間延べ463名のボランティアが活躍するほどになった。
- ボランティア同士が互いに磨き合い、学び合っており、自信につながっている。

◇にかほ市生涯学習奨励員協議会会長 にかほ探検隊隊長 伊藤 良孝氏

- 公民館行事として、今までに経験したことがなかった「雪遊び」を提案した。
- スノートレッキングは、道具の借用やガイドの依頼をし、地域に協力していただくことで実施することができた。
- 企画は公民館であり、行政とのつながりが大切だと思う。

◇能代市上町自治会会長・のしろ白神ネット ワーク代表 能登 祐子氏

- 65歳以上が62%を占める町内の会長になったことをきっかけに、諸活動の取り組みを始めた。
- 自治会内の状況把握や困りごと相談等を手始めに、地域内の活動から広域連携へと活動の場を広げていった。
- 「学んだことは即実践！」をモットーに、積極的に取り組む毎日である。住む人が、暮らしやすく輝ける場所を作りたいという願いのもとに、地域コミュニティ施設を開設し、行政と連携しながら、活動を続けている。

どのパネリストの発表からも自分たちが学んできたことを生かして、地域の活性化につなげたいという熱い思いが伝わってきました。行政や地域の登録ボランティア、学校との連絡調整、子どもたちの願いを吸い上げること等コーディネーターとして関係づくりが大切であるという実践例が紹介されました。人と人との関係づくり(絆づくり)が学習と行動を促進し、関係づくりがうまくいかない時代だからこそ、意識して体験を共有することが必要であり、その大切さを確認しました。200名を超える参加者があり、有意義な大会となりました。



昼休み時間に行われた「行動人作品紹介・交流タイム」では、12のブースが設けられました。各ブースの前に集まり、行動人の説明に熱心に耳を傾ける姿が見られました。

「生涯学習・社会教育関係者実践講座」を振り返って

今年度の実践講座が好評のうちに、終了しました。全8回延べ329名の方々が参加してくださいました。ご協力に感謝いたします。

今年度の特徴として、より参加しやすく、地域のニーズに合った研修を目指し、

◎県内8市町村を会場に行われたこと

◎それぞれの地域のテーマとその内容について、事前に協議したこと

があげられます。このことが、参加者の増加につながり、さらには、社会教育関係者の資質向上やネットワーク形成が促進されたと思います。



◇活発なグループ協議の様子

参加者が講座から学んだことをいくつか紹介します。

○公民館の立ち位置を考え、子どもたちの育成に関わる役割を果たしていきたい。

○学校見学は、大変興味深かった。学校としての課題も聞き、信頼できる関係づくりができると思った。

○企業との連携について取り上げたことはよかった。連携の方向を探っていきたい。

○後継者が不足し、伝統文化の継承が難しいが、地域の大人たちのがんばりで興味をもつ子どもたちが増加している。

○実践につながりそうなさまざまなアイディアの発表があり、参考になった。

一連の講座を通して、地域素材の活用や人と人とのつながりが重要であることが確認できました。奨励員はじめ公民館の方々は、地域の有力な情報源です。学校と地域のパイプ役として存在感を示し、企画を具体化することが大切だと思います。

各回とも地域の行動人から提供していただいた話題をもとに、協議を行いました。グループ分けや協議の仕方に工夫が見られ、豊富な実践に裏付けされた貴重な意見が出されました。

参加者の元気あふれる姿を頼もしく思い、学びと協働が社会教育に好影響を及ぼすことを実感しました。

リレーコラム

～家族を笑顔にする10のヒント～

あ き た の そ こ ち か ら ！

リレーコラムの2回目は、「基本的生活習慣」についてです。

き

規則正しい生活リズム！幸せつくる「早寝早起き朝ごはん」

子どもの健やかな成長には、規則正しい生活リズムが大切です。朝の光で気持ちよく目覚め、家族一緒の朝ご飯を食べることは、その日一日の活動を有意義に過ごす何よりのスタートです。「早寝早起き朝ごはん」を心がけて、家族みんなの習慣にしましょう。

朝、昼、夕の食事の中で、特に大切なのが朝。朝目覚めた時は、脳のエネルギーが不足している状態です。朝食をとることにより、眠っていた脳や体が目覚め、活動のエネルギーが蓄えられ、元気に1日を過ごすことができるようになります。ところが、体の不調を訴える子どもの中には、朝ごはんを食べてこない子どもがいます。睡眠不足のために食欲がなかったり、起きるのが遅く食べる時間がなかったりすること等が原因としてあげられます。十分睡眠をとることは、1日中使った脳と体を休めるためにとっても大切なことです。

体の中に時計(体内時計)があることは知っていますか。不規則な生活を続けると時計が狂い、頭痛や腹痛等の症状が出て活動に身が入りません。「早寝早起き朝ごはん」は、規則正しい生活の第一歩。このことは、子どもたちの学校生活を充実したものにし、さらには、学力や体力の向上、心の安定につながります。将来の生活習慣病の予防にも役立ちます。

子どもたちだけでなく、家族全員が生活のリズムを整えて、心も体も健康な毎日を過ごしましょう。

※学校報等でご活用ください。